

ジンバブエ共和国月報（2024年1月）

主な出来事

【内政・外交】

- ムナンガグワ大統領、非同盟運動（NAM）会議及びG77+中国会議に出席
- ジンバブエ、中国による効率的な警備活動システムを導入
- 野党ら、選挙制度改革に関する覚書に署名
- ベラルーシ、移動式病院の寄贈
- チャミサ野党 CCC 党首、CCC 離脱を発表
- ジンバブエ、ベラルーシと警備活動分野の協力における覚書に署名
- ジンバブエ、露と人権擁護における覚書に署名
- ジンバブエ、キューバと関係強化
- UNICEF：約50万人の子どもが学校に通えていない
- チグンバ氏、ジンバブエ選挙管理委員会（ZEC）議長に再任命される
- 政府、コレラ経口予防ワクチン（OVC）の支給開始
- ムナンガグワ大統領、イタリア・アフリカ・サミット出席
- シカラ元野党 CCC 議員ら、公共暴力扇動の容疑で有罪判決

【経済・経済協力】

- 2023年のタバコ輸出総額が12億3,700万米ドルに
- WFP、約8万人を対象に食糧援助を開始
- ジンバブエ投資開発庁（ZIDA）、ジンバブエ歳入庁（ZIMRA）と覚書に署名
- ジンバブエ、新たなモザンビーク港建設を中国に支援要請
- 西マショナランド州に10億米ドルのセメント工場建設
- 価格高騰
- ジンバブエ、さらなる道路や橋建設取組に努める：モザンビークと会談
- ジンバブエ、英国と新たな貿易関係構築に努める
- ジンバブエ、ザンビアと農産加工団地を共同設置予定
- ジンバブエ、電力分野で中国と覚書に署名

【内政・外交】

・ムナンガグワ大統領、非同盟運動（NAM）会議及びG77+中国会議に出席

ムナンガグワ大統領は、第19回非同盟運動（NAM）会議及びG77+中国会議に出席するため、ウガンダを訪問した。NAM 会議では、ジンバブエは、国連安保理立候補への支持を要請した。

NAM 会議参加国は、国際法に反する単独主義的行動を抑制するため、国際政治場裏における政治的目的のための団結・結束運動強化に合意した。本会議では、南スーダンがNAM に加盟した。食の安全保障に関して、貧困と飢餓対策を迅速に行っていくことで合意した。（22日付、ヘラルド紙）

・ジンバブエ、中国による効率的な警備活動システムを導入

17日、周中国大使は、カゼンベ国務省大臣と面談した。ジンバブエは、国内の警備配置において、法の執行をより効率的なものとするために、中国の知見を得る。同モデルは、国内警備における実際の警察配置の代替として、AI や監視システム他の技術を駆使し、今後数ヶ月間にわたり導入していく。カゼンベ国務大臣は、「中国大使に対して、中国国内で、道路で警察を見かけることがない理由は技術のおかげであると伝えた。このような分野でも協力を進めていきたいと思う。」とし、中国との協力を通して国家警察をより効率的効果的な組織にしたいと述べた。

周中国大使は、法医学研究所への機材寄付に言及し、「明日（19日）、反麻薬研究所への引き渡し式を予定している。これまでに、（ジンバブエの）警察や政府高官に対して、中国で多くの訓練プログラムを提供してきた。中国大使館は、今後、法と秩序機関においても関係強化をしていくことに努める。昨年実施された総選挙で市民の安全を守った国家警察（ZRP）を称賛する。」と述べた。（18日付、ヘラルド紙）

国家警察は、中国から新たに寄贈された機材を、国内で起きている麻薬取引の取締りに活用させると述べた。機材は、ラマン分光、麻薬抽出・サンプルキット等を含む最新技術であり、警察署内における科学的犯罪捜査で活用される。（19日付、ヘラルド紙）

・野党ら、選挙制度改革に関する覚書に署名

野党らは、国家選挙改革アジェンダ（NERA）に沿って、国内の選挙制度改革に努めるための覚書に署名した。しかし、国内の主要政党 ZANU-PF と CCC は覚書の署名に参加していない。ムウォンゾラ MDC 党首兼 NERA 事務局長は、「同プラットフォームは、選挙制度改革、選挙監査・監視準備、選挙管理メカニズム、票の保護といった問題に取り組んでいく。」と述べた。（19日付、デイリーニュース紙）

・ベラルーシ、移動式病院の寄贈

ルカシェンコ・ベラルーシ大統領は、ムナンガグワ大統領夫人が代表を務めるエンジェル・ホープ財団に最先端の移動式病院を寄贈した。

ムナンガグワ大統領は「ルカシエンコ大統領に謝意及び敬意を表する。この素晴らしい支援は、両国間の強固で包括的な関係の証である。これは、オクジリア大統領夫人の働きのおかげでもあり、この最先端の移動式病院の寄贈により、ジンバブエは高度な医療を提供できる国の一つに加わる事となる。」と述べた。

イリナ・アベルスカヤ・ベラルーシ国立医学研究所長は、「2023年4月にオクジリア大統領夫人がベラルーシを訪問された際に合意した内容を全て履行することができたことを光栄に思う。移動式病院をエンジェル・ホープ財団に提供することを喜ばしく思うとともに、貴国の様々な地域における女性に質の高いケアを届ける重要な最初のステップとなることを確信している。今後もベラルーシは、ジンバブエ国民の社会保障と福祉の向上のため、包括的な支援を実施していくことを約束する。」とのルカシエンコ大統領からのメッセージを紹介した。(23日付、ヘラルド紙)

・チャミサ野党 CCC 党首、CCC 離脱を発表

(1) 24日、チャミサ野党 CCC 党首が、CCC 党からの離脱を表明する声明文を発表した。チャミサ氏は、声明文にて、「本日をもって、CCC 党から公式に離脱することを発表する。CCC の本来の目的が、国家制度の濫用を通じた与党 ZANU-PF により汚され、ハイジャックされ、ZANU-PF のものとなってしまった。達成すべき新しいことが多くある。愛する我が国の完全な自由、真の変化、全体的な変革のために協力していく。諦めや屈服という選択肢はない。粘り強さと強靱性が必要である。次の動きについては後日報告する。新たな挑戦に向けた支援と祈りに感謝する。」と発表した。

(2) 元 CCC 党員によると、CCC 議員及び市議員は、チャミサを支持するか CCC 党に残留する選択肢がある。マスヌングレ教授は、「CCC は、前例のない組織的混乱と動揺を上手く利用した詐欺師によりハイジャックされてしまった。これは、CCC 党が掲げていた戦略的曖昧さ (“Strategic Ambiguity”) が招いた結果である。チャミサが今回の件から学べることは、組織あつての権力という政治における基本ルールを尊重することである。」と述べた。(26日付、ニュースデイ紙)

・ジンバブエ、ベラルーシと警備活動分野の協力における覚書に署名

24日、ジンバブエとベラルーシは、訓練や技術交換等を含む警備活動分野の協力における覚書に署名した。クブラコフ・ベラルーシ内務大臣率いる外交団が当国を訪問しており、クブラコフ内務大臣は、本覚書は両国民に利益があるものであり、ジンバブエ支援のためにできることは全てする。」と述べた。(25日付、ヘラルド紙)

・ジンバブエ、露と人権擁護における覚書に署名

24日、ジンバブエと露は、複数の欧米諸国から課せられている違法な制裁に苦しむ人々の人権保護に関する覚書に署名した。チェチェルニツキ露人権高等弁務官第一副代表

は、「同覚書は、両国民の人権保護のため団結したアプローチを取るためのものである。同時に、社会的権利、土地の権利、環境の権利の保護も本覚書に含まれている。」と述べた。(25日付、ヘラルド紙)

・ジンバブエ、キューバと関係強化

メサ・キューバ副大統領が当国を訪問し、モハディ副大統領と会談を行った。モハディ副大統領は、メサ副大統領の訪問は1960年代から続く二国間の友好関係の証であるとし、「この友好関係を、平等、主権の相互尊重、共通の目標を基にした相互利益がある新たなより高いレベルでの関係としていきたい。」と述べた。(26日付、ヘラルド紙)

・UNICEF：約50万人の子どもが学校に通えていない

UNICEFは、ジンバブエ国内で約50万人の子どもが学校に通えない状態にあるとし、対応を求めた。オイエワレ UNICEF 当地代表は、「3～5歳の10人に6人のみが就学前教育を受けており、推定約50万人の初等教育レベルの子どもが学校に通えていない状況にある。初等・中等教育省と共にこの課題に対応していく必要がある。」と述べた。(25日付、ニュースデイ紙)

・チグンバ氏、ジンバブエ選挙管理委員会（ZEC）議長に再任命される

25日、ムナンガグワ大統領は、チグンバ現 ZEC 議長を、ZEC 議長として再任命した。2月1日より6年間の任期を務める。(26日付、ニュースデイ紙)

・政府、コレラ経口予防ワクチン（OVC）の支給開始

政府は、29日より、コレラ感染者拡大を受けて感染者が多い29地域で80万人を対象とするコレラ経口予防ワクチン（OVC）の支給を開始させた。(29日付、ヘラルド紙)

・ムナンガグワ大統領、イタリア・アフリカ・サミット出席

ムナンガグワ大統領は、イタリア・アフリカ・サミットに出席するためローマを訪問した。本サミットは、特に電力、外交、移民の分野における貿易改善を目指し、アフリカ諸国との戦略的パートナーシップについて議論される。シャワ外務大臣、マスカ土地大臣、ヌーベ財務大臣が同行した。(29日付、ヘラルド紙)

・シカラ元野党 CCC 議員ら、公共暴力扇動の容疑で有罪判決

2022年に公共暴力を扇動した罪に問われ、約600日間拘留されていたシカラ元野党 CCC 議員らは、ハラレ地方治安裁判所において、懲役2年、執行猶予5年の判決が下された(31日付、ヘラルド紙)。

【経済・経済協力】

- ・ 2023年のタバコ輸出総額が12億3,700万米ドルに

2023年のタバコ輸出総額が、2022年の9億8,340万米ドルから、12億3,700万米ドルに増加し、年間で約2億3千キログラムの輸出量となった。(4日付、ヘラルド紙)

- ・ WFP、約8万人を対象に食糧援助を開始

WFPは、エル・ニーニョ現象による影響に対応するため、干ばつの影響を強く受け、食料確保が十分にできていないマシング州ムウェネジ郡の約8万人を対象に、食糧配給を開始させた。(4日付、ニュースデイ紙)

- ・ ジンバブエ投資開発庁 (ZIDA)、ジンバブエ歳入庁 (ZIMRA) と覚書に署名

12日、ジンバブエ投資開発庁 (ZIDA) とジンバブエ歳入庁 (ZIMRA) は、国内のビジネス促進と国内外からの投資の促進に協力するための覚書に署名した。情報交換、投資家に関する情報、投資促進における協力についての合意である。(15日付、ヘラルド氏)

- ・ ジンバブエ、新たなモザンビーク港建設を中国に支援要請

ムナンガグワ大統領は、今年中に中国を訪問する予定であり、その際、モザンビークに新港建設支援を求める予定である。昨日ハラレで ZANU-PF 会議が行われ、ムツァングワ ZANU-PF 広報担当官は、ジンバブエ経済活動の回復によりモザンビークへの輸出量増加が予測されるなかで、ベイラの多くの港が未開発であると述べた。(16日付、ヘラルド紙)

- ・ 西マシヨナランド州に10億米ドルのセメント工場建設

中国投資家により、西マシヨナランド州に10億米ドルのセメント製造工場が建設される。同事業は、ラベンモン・インベストメント社とウェスト・インターナショナル社の共同事業であり、2025年に完成される予定である。地元地域に、5千人の雇用が生み出されるとされる。(16日付、ヘラルド紙)

- ・ 価格高騰

基本消費財の価格が高騰を続けている。パン、牛乳、塩、料理油、砂糖、ミーリーミールといった15%の消費税から免除されている商品においても、ここ数日間で価格上昇が見られる。砂糖2KGは27,601ZWLから30,000ZWLに、パン一斤は9,500ZWLから11,000ZWLに上昇した。(18日付、デイリーニュース紙)

- ・ ジンバブエ、さらなる道路や橋梁建設取組に努める：モザンビークと会談

18日、モーナ運輸大臣とマガラ・モザンビーク運輸大臣は会談を行い、運輸・インフ

ラ整備に関する覚書に署名した。ジンバブエは、モザンビークとの二国間関係は長い歴史で結ばれているとし、「両国は、地理、伝統、価値、文化、言語、宗教等に関しても多くを共有してきた。本覚書は、航空、道路、鉄道、運輸、インフラ分野において、さらなる協力を拡大させていくものである。」と述べた。(19日付、ヘラルド氏)

・ジンバブエ、英国と新たな貿易関係構築に努める

23日、アフリカ諸国の商業及び政治分野への参入に関心をもつ企業や個人を紹介する機関である英ウェストミンスター・アフリカ・ビジネス・グループはシャワ外務・国際貿易大臣と面談し、英国からの投資呼び込みのためジンバブエにおける貿易促進取組に努めていきたいと述べた。(24日付、ヘラルド紙)

24日、ロバートソン議長は、ムナンガグワ大統領を表敬訪問し、ジンバブエとの貿易促進へ取り組んでいくとし、「英国は、EU 離脱後、世界各国を視野に貿易促進を進めていく必要があった。多くの国でしてきたことと同様に、ジンバブエでも同様に貿易関係強化に努めたい。」と述べた。(25日付、ヘラルド紙)

・ジンバブエ、ザンビアと農産加工団地を共同設置予定

ジンバブエは、ザンビアと共同で、両国の農業分野成長と貿易促進を目指して、共同農産加工団地 (CAIP) 設置を進める。同団地は、メイズと乳製品農業を中心とする。Afri-Exim 銀行やアフリカ開発銀行 (AfDB) が資金援助に関心を示している。(24日付、デイリーニューズ紙)

・ジンバブエ、電力分野で中国と覚書に署名

電力分野における投資と協力の可能性を模索するため、モヨ・エネルギー・電力開発大臣率いる外交団が中国を訪問した。ガタ・ジンバブエ電力供給庁 (ZESA) 代表や外務・国際貿易省からの代表高官らも帯同した。25日、ZESA は、中国の電力事業を手掛ける複数企業との電力分野における協力に関する覚書に署名した。(26日付、ヘラルド紙)